

おしどりミニだより



「老い集う 窓辺山茶花 乱れ咲く」

ご利用者さんの一句です。このように山茶花も会話も花盛りの毎日です。インフルエンザの患者が過去最高になったとニュースで流れています。うがい、手洗いとともに会話、笑い、身体を動かすという3つのことで体と気持ちが活性化します。そしてインフルエンザを防ぐことが出来ます。今月も皆さんと大いに笑い大いに体を動かしたいと思います。

社会福祉法人近江ちいろば会
地域密着型デイサービス
デイケアの家おしどり
湖南省サイドタウン 3-16-72
2019年2月1日



「幸せパン」

ある日、パンで人を喜ばせたいという思いを持って様々なところでパンを作っておられる青年がおしどりを訪ね

て来てくれました。

早速、みなさんの目の前でパン作りが始まりました。すべての材料が一つになり生地を叩く作業が始まると、パンパンという軽快な音とともに、皆さんの掛け声が「よいしょ、よいしょ」と始まり大賑わい!! 皆さんの気持ちが“美味しいパンになれよ♥”と一つになっているかのようでした。

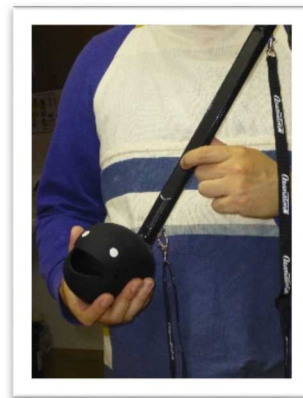
一次発酵、二次発酵の間は歌の交流の時間となり「お玉トーン」という見たことのない楽器で琵琶湖周航の曲を一緒に歌いました。

多くの方が粉からのパン作りを初めて体験され、「時間がかかることに驚いた」「パンは繊細なんや〜」と驚いておられました。その中でも以前パン作りをされていた方は元気にパンを焼いていたころの自分に帰り、目がイキイキと輝き「今よりもっと元気になってみんなにパンを食べさせたい」と希望をもたれました。

焼き立てのパンは部屋中に美味しい香りが漂い大好評で「こんなおいしいパンを初めて食べた」という声に、パン青年もここに来て良かったと顔をほころばせておられました。「また来てや」「又来ます」と次の約束もして下さいました。

この青年はおしどりを訪ねる前は「高齢者施設は静かなところ」というイメージを

持っておられたようで「イメージが変わりました。みなさん元気で明るくてにぎやかでイキイキしておられた」と感想を伝えて下さいました。そして「人と繋がれることが幸せです」との言葉を残して帰られました。おしどりのご利用者さんにとっても、パンで人を喜ばせたいという希望を持った若い青年と出会い、パン作りを見ながら一緒に歌を歌い、世代を超えた交流が出来た素敵な一日になったことだと思います。





節分のメニューは巻きずし、大根と豚肉の煮物、おひたし、赤だし巻きずしは皆さんが巻いてくださいました。食事の時、ダイナミックにそのままかじる方も。健康で過ごせますように願いを込めて。

ひとり一人を大切に 生活リハビリ

生活リハビリは自立・自律支援を目的としています。おしどりでは、今出来ることを見つけ、経験し、自宅に帰っても同じようにできることが自立・自律支援だと考え日々の取り組みとして大きな時間を使っています。おしどりではこの生活リハビリによって人生に夢や希望を見出し「生きる」力を持っていたきたいという願いを持っています。



季節を感じて…節分

鬼のお面を作り、新聞紙をまるめた豆で鬼退治をしました。日頃体を動かすことが少ない方や肩が痛くて手が上がらないと言われている方も、そんなことを忘れるくらい楽しまれて、立ち上がり腕を大きく振り豆まきをしておられました。



鬼退治後 皆さんで万歳三唱!!

皆さんが欲しい福は・
何ととっても「健康」と声を
そろえて言われていました。

